



都城大弓を学び、魅力を伝える

国の伝統的工芸品の都城大弓制作実演研修が6月14日、都城島津邸で開催されました。都城島津邸を中心に、ボランティアで都城や都城島津家の歴史などを説明する都城歴史観光ガイドの会の会員35人が参加。ガイドする際に、観光客などから都城大弓についてもよく聞かれることから、今回の研修が企画されました。国の伝統工芸士の小倉紫峰^{しほほう}さんは「材質や技法など理解を深めたい点を質問し、とても熱心に受講してくれました。皆さんの活動に生かしてもらえたらうれしい」と話していました。



都城大弓制作実演研修

地域で受け継ぐ伝統文化

第100回となる山之口人形浄瑠璃定期公演が6月18日、人形の館（山之口町山之口）で開催されました。市内外から300人以上が詰め掛け、用意された席が足りなくなるほどの盛況ぶり。上演に先立ち、池田市長が山之口麓文弥節人形浄瑠璃保存会に感謝状を贈り、伝統文化の継承と公演活動継続の功績をたたえました。同保存会の前田公友^{きよとも}会長は「100回という節目は通過点に過ぎない。地域で受け継いできた大切な文化を絶やさず、次の世代につないでいきたい」と力を込めていました。



山之口麓文弥節人形浄瑠璃第100回定期公演

全国一斉の歯みがき大会

全国小学生歯みがき大会に6月21日、富吉小学校4年生12人が参加しました。日本以外でも韓国やタイなど、アジア各国の約16万人の小学生が、同じ映像を見ながら正しい歯みがきの方法を学ぶ本大会。一人一人に鏡や歯ブラシなどが配布されると、児童らは自分の歯の状態を確認したり、正しい歯みがきの仕方や歯の健康の大切さを学んだりしていました。最後に、児童一人一人が、歯みがきの大切さから学んだことを発表。日々の積み重ねの大切さを発言していました。



富吉小学校「全国小学生歯みがき大会」参加

夜間救急医療への貢献に感謝

都城圏域の救急医療を支える都城夜間急病センターの当直協力医師に対して、6月23日、認定証が交付されました。都城圏域の当直協力医師の高齢化や大学医局員数の減少などにより、現在の救急医療体制を維持していくための当直医師確保が喫緊の課題となっています。そのような状況でも、当直協力医師の貢献により、本市の救急医療が支えられています。池田市長は「24時間365日の診療体制は、県内では本市と宮崎市のみ。これからもよろしくお願いします」とねぎらいました。



夜間急病センター当直協力医認定証交付

円滑な救急対応のために

外国人傷病者の救急対応を円滑に行うための訓練が6月23日、消防局で行われました。国際交流員が傷病者役として参加し、けがや腹痛などで救急搬送された場合を想定した訓練を実施。救急隊員は、スマートフォンでの音声翻訳アプリや、症状などをイラストと外国語で記載したボードを使って、症状を聞き取り、搬送の手順などを説明しました。隊長役を務めた高丸裕司主査（南消防署）は「外国人の搬送も増えているので、円滑に対応できるように訓練を重ねていきたい」と意気込みを話しました。



外国人対応救急シミュレーション訓練



史跡に親しみ憩う場を整備

大島畠田遺跡歴史公園（金田町）の開園記念式典が6月25日、同公園内で開催されました。平成11年の調査で平安時代の地方有力者の屋敷跡が見つかり、平成14年に国の史跡に指定された同遺跡。この貴重な文化財を活用するために、平成26年度から公園整備に着手し、今年3月に完成しました。式典では、池田市長が「史跡に親しみながら、地域や市民が憩う場として活用していきたい」とあいさつ。そのほか、文化財課職員による遺跡の解説が行われ、参加者らは熱心に耳を傾けていました。



大島畠田遺跡歴史公園オープニングセレモニー

利用者の安全を固く誓う

清流「境川」での川遊びや、魚釣りで人気の青井岳キャンプ場の安全祈願祭が7月1日、開催されました。関係者らがシーズン中の安全を祈願し、同キャンプ場ののにぎわいの夏がスタート。毎年3千人ほどが詰め掛ける同キャンプ場は、境川の改修工事が一部実施されたことで、より利用しやすくなりました。大田良夫キャンプ場長は「豊かな自然環境や施設の充実などで、毎年好評を得ている。利用する皆さんの楽しい夏の思い出づくりを、安全面に配慮しながらサポートしたい」と話していました。



青井岳キャンプ場安全祈願祭

盆地に夏、到来！

都城盆地に夏の訪れを告げる六月灯が、市内各所で始まりました。梅雨の中休みで晴天に恵まれた7月2日開催の秋葉神社六月灯（平江町）では、氏子らが家内安全や地域の安全を祈って玉串を奉納。また、模擬店が出店され、歌や踊りなどの披露の場となった平江自治公民館には、住民らが詰め掛け、地域で伝承されている民俗芸能「平江儀舞」の披露などを楽しんでいました。市内各所で開催される六月灯や夏祭りなどの日程は、市ホームページで紹介しています。



秋葉神社六月灯



都城市ホームページ

環境美化をポスターで表現

「都城市環境美化の日」絵画コンクールの表彰式が7月4日、市長室で行われました。子どもたちの環境美化への意識高揚を図るために開催される本コンクール。今年は市内8校から、不法投棄防止や河川保護などを呼び掛ける303作品の応募がありました。大賞を受賞した大浦優月さん（石山小6年）は「近所の公園をきれいにする様子を描いた。大賞に選ばれてビックリした」と照れながら話していました。大賞作品は、環境美化の日の啓発ポスターとして自治公民館などに掲示されます。



「都城市環境美化の日」絵画コンクール表彰

3人力合わせて都城をPR

2017都城観光レディに選ばれた櫻木結衣さん、園田さらりさん、浜川彩さんが7月5日、池田市長を表敬訪問しました。今回リニューアルした、都城の桜をイメージしたピンク色のワンピースと白色のジャケットに身を包み、活動に向けての意気込みを話していました。南九州大学人間発達学部在学中の浜川さんは「生まれも育ちも都城なので、魅力をたくさん知っている。観光地や食べ物だけでなく、市民の穏やかで優しい人柄もPRしていきたい」と意欲を見せていました。



2017都城観光レディ 就任あいさつ



smiling faces of miyakonojo

都城農業高校 畜産研究班

長濱 裕汰さん（畜産科3年・上）

堤 将利さん（畜産科2年・下）



6月7日に開催されたJ A都城郡市和牛共進会で、都城農業高校畜産研究班が育てた雌子牛「りこ」が、出品牛36頭の中から、優等1席に輝きました。同校では、4年前の2席が最高で、優等1席は初の快挙です。

「りこ」は、父親が「美穂国」、母の父親が「福之国」と、いずれも県の代表的な種雄牛の、優秀な血統を引き継ぎ、昨年9月に同校の三股牧場で生まれました。「生まれた頃から型がよく、将来は良い牛に育つと思う」と、子牛の頃から世話をしてきた長濱さんは当時を振り返ります。共進会出品

時点で「りこ」は日齢271日、体重311キロと、発育も良く、体の輪郭が美しいことなどが高く評価されました。堤さんは「初めての1席獲得をみんな喜んで。がんばってきたことが実を結んでうれしい」と喜びをかみしめます。畜産科の担当教員も「部活や生徒会活動などと両立して、みんなががんばっている。日頃の努力が1席の評価に結びついた」と生徒らをたたえます。

二人を含め、同校の畜産科の生徒15人で構成される畜産研究班。班員の多くは実家が畜産農家で、後継者として手伝いをしながら勉

学や実習に励んでいます。

小さい頃から家業を手伝っていた長濱さんは「長崎で開催された全国和牛能力共進会（全共）で、宮崎県の代表牛が2連覇を達成したことに感銘を受けて、将来この場に立ちたい」と強く思い、同校に入学。一方で、畜産の経験がなかった堤さんは「動物が好きで入学したもの、最初は牛が動いてくれないなど苦労した。先輩から教わりながらいろいろできるようになる」と、次第に牛が懐いてくれるようになった」と研究班での充実した日々を振り返ります。

生徒たちは、毎日、学校が始ま

る前と放課後に三股牧場に向かい、牛のブラッシングや運動、姿勢づくりのための調教などに熱心に取り組んでいます。「手をかけた分だけ牛も応えてくれて、それが結果につながることがうれしい」と畜産のやりがいを話す長濱さん。「大学で農業を学び、将来は全共に出品できる牛を育てたい」と夢を話します。

同研究班の育てた「りこ」は、母牛として、三股牧場に残ります。二人は「先生や先輩から教えてもらったことを先輩にも引き継ぎ、これからも大切に育てていきたい」と意気込みを熱く語りました。

A young man wearing a grey cap and a grey uniform with '乙長 研' on the chest is looking down at a cow's head. The cow has a yellow tag on its ear and a green halter. The background shows a stable with wooden stalls and other cows.

努力が身を結んだ 都城農業高校初の快挙

全国和牛能力共進会とは…

肉質や改良の成果を競う全国規模の和牛の品評会で、5年に1度、全国持ち回りで開催されます。

今年の9月に開催される宮城大会で県勢3連覇を達成するために、県内の畜産関係者が一丸となって頑張っています。